

地域包括ケア専門職“絆”研修第 9 回 ③看取りの時期「終末期支援」

〈日 時〉 令和 7 年 2 月 16 日(日)



9, スタッフの振り返り

1. 良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

- ・グループマナーで、特に大きな声で話すよう心がけるよう呼びかけたことで参加者が発言する際は意識し出来ていた。
- ・司会を担当することで、発言の少ない参加者から意見を引きだすことが行いやすかった。
- ・ファシリが司会をすることで、経験の少ない方にも参加しやすいようにしたり、重要なポイントをグループに伝えやすかった。
- ・アイスブレーキングで緊張感をブレーキングが出来たのが良かった。
- ・今回は GW1で司会をしながらのファシリテーターだったので今までよりもグループに入り込むことになったが、時間いっぱいまで話し合いを深めたり、意見を引き出すことを意識できた。

- ・グループの参加者全員に発言していただき活発な意見交換ができた。
- ・打ち合わせ通り、看取り経験のない方から発言を最初にしていただき、他の参加者の意見に左右されない意見を言っていた。また、経験のない方にも意見を言いやすいように話を振ることができたと思う。

【事務局】

- ・駐車場の誘導。医師会館前で迷われる方も何台か見えたので、係配置は良かった。
- ・ファシリタの当日の振り返りやグループワークの様子から、グループワーク①で司会進行をファシリタが担い、参加者の看取り経験の有無で発言の順番を決めたことは良かったとか感じた。

2. 今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・参加者の中に長くしゃべってしまう方に対して失礼のないようコントロールできるスキル。
 - ・司会とファシリタの役割をこなしながら、参加者の発言内容を引き出すために記録することは忙しかった。次回は発言の少ない参加者の発言内容を中心に記録するように工夫する。
 - ・グループワークで意見が単発的になりやすく、ディスカッションが進みにくかった。意見が止まった時に、更にディスカッションが進むような投げかけを予め準備していたが、それでも意見が止まってしまう事があった。在宅看取り経験がない方ももっと意見を出せるような投げかけを、複数個準備しておけば良かったと反省した。
 - ・アイスブレイクでの人勧管理ができずグループとしての最後の晚餐を選べなかったので時間管理をスムーズにできるように気を付けたい。
 - ・参加者の職種や背景を理解し、それらを踏まえた質問や意見を引き出せるようになる事。
- グループワーク①での話し合いの内容の一部がグループワーク②で話し合う内容になってしまっていた。例えば、グループワーク①はACPが行われた後の専門職としての意見を言う場面であったが、ACP が直前に行われていたのか1か月前なのか、ACP を行った時のメンバーが誰であったのかが分からなかったため、「再度、本人家族を含めた多職種で話し合い」「今後の予後予測を医師に伺ってから」「胃瘻、点滴等を行った時のメリット、デメリットを本人家族は知っているのか」等の意見が多く出た。前提をしっかりと設定しても、それが本人・家族の意向だからとなるのかもしれないが、そのあたりは難しいと感じた。

【事務局】

- ・当日の振り返りでも触れられていたが、グループワーク①の問いの本来の趣旨でもある「医療ケアチームとして、専門職として」や前提(食事形態に改善無いことなど)を揃えるところ。
- ・氏名の漢字の見直し。

3. 研修参加者にとってよかったと感じたこと

- ・延命に対する考えが人それぞれ違う価値観を持っていることを共有できたこと。

- ・ファシリがグループワークに参加することで、一緒に取り組んでいる感じが出ているのは良かったと思う。
- ・グループワークでは本人・家族の選択を優先する内容が多かったので、もう少し踏み込んだ専門的な意見を引き出すところまでいけたら更に良かったと思う。
- ・在宅看取りの支援の経験がない方にとって、在宅で最後まで過ごす事を考えた時に、どのような体制が必要かを考えるきっかけとなったかと思う。
- ・延命ということについて、どこまでが延命なのか、することやしないことについてどう思うのかを改めて深く考えることができた。
- ・グループワークを和やかに行うことが出来、発言しやすい雰囲気職種を超えた意見交換が出来たと思う。
- ・経験がない方は経験者の意見を聞け、経験がある方も経験のある他職種の意見を聞くことができたことはよかったと感じた。
- ・多職種間のワーク。
- ・グループワーク①のファシリ司会進行。
- ・グループワークの検討時間。看取り経験の有無に関わらずワークに参加できたこと。
- ・ファシリテーターの介入で皆さん安心して意見を出し合ったり、スムーズにワークを進めることが出来たと思う。

4. 研修参加者にとって良くなかったと感じたこと

- ・各グループの発表中に、書記の方が模造紙にまとめる作業をワーク終了後も続けており、今後どのようにコントロールしていけば良いか課題が残った。
- ・在宅支援移行期や生活期の支援と比較して、終末期の支援経験が無い方にとって特にイメージが沸きにくい印象がある。実際の終末期支援の経験談などが多少入った方が、イメージが作りやすいのかなと感じた。
- ・一時的だが、一部の職種のメンバー特有の話題が続いた場面があった。

5. 研修までの準備に関しての感想

- ・良かったと思う。
- ・研修の重要なポイントを把握・ファシリの関わり方を検討できたことが良かった。
- ・グループワークで参加者さんが困ってしまわないようなファシリテートのシミュレーションが足りなかった。
- ・プレゼンの準備やグループワークの方法など皆で意見を出すことでよいものになったと思う。
- ・グループワークを自分が司会として取り仕切ることに対する不安があったが、始まってみると参加者が自発的に質問や促しをして下さり助けられた。
- ・特に問題はなかったように思いますが、数名のファシリが時間の管理について言われていたもので何か修正しないといけない部分があるのかも。
- ・ファシリテーターの役割に司会進行を担う形で話し合われた。また去年の経験から全参加者に積極的にワークへ参加してもらいたいという意図から、看取り経験の有無にも配慮した進行についても話し合われた。毎回、準備の段階からアップデートが見られ、本番が楽しみになっている。

・当日の留意点をお知らせ(メール)するタイミング。締め切り前でも申し込みできているか不安に思われ、同じ人が何度か申し込みされたり電話で問い合わせされた方もおられた。

6. 研修全体について

- ・学びの多い会で、自分自身もブラッシュアップ出来た。
- ・グループの構成やグループワークの雰囲気にもよるが、次回もファシリ兼司会として介入し、今回で見た課題を改善したいと思う。
- ・参加者の意見を十分に引き出せなかったと反省。本番はどのようにしようかと自分の中で想定はしていたが、グループ全体でのディスカッションを活発にするための準備不足だったかと思う。来年はもっと上手くできるように頑張ります。
- ・準備から本番までスムーズな進行ができ、とてもよかったと思う。
- ・今回はグループワーク①でまずファシリが先に司会を行うことで、次に司会を行うメンバーの参考となり、より良い方向でワークが進められたと思う。自分としても参加者が司会をする様子から学ぶべきことが多くあった。ファシリもグループワークに参加し、コミュニケーションが深まり、以降発言がしやすかった。
- ・この度はグループワーク①のファシリの司会と、グループワーク②での司会者についてファシリに一任されていたことが今までとの違いの1つであり、グループメンバーによっては難しさを感じる部分であったと思う。グループによっては、参加者によるグループワーク②の司会がファシリを手本に上手くできていたとの話もあったので、そのあたりは研修に参加しプラスαで持ち帰っていただけた部分であり良かったと感じた。
- ・当日は参加者について欠席もなく、多数の方にご参加いただいた。研修3回シリーズのラストということもあり、修了者も多く、‘絆’研修が特別な多職種のつながりの場であることを、改めて感じている。お互いの理解を深めたり、気付きを得たりできるワークや研修内容の充実も講師・ファシリの皆様のご尽力のおかげです。記録用として撮影した研修の様子からも、参加者の満足感が伺えるシーンがいくつもありました。また講師・ファシリの活躍も写真におさめていますので、ぜひご覧ください。
- ・9回目でもなお、県外を含めたくさんの方に参加頂いた。参加者の半数以上は全過程修了者で中には複数回修了される方もおられたり、それだけ有意義で価値ある研修会だと改めて感じた。こうやって継続できているのも講師、スタッフの皆様のご協力あってこそ！です。